

## 1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、生涯にわたり主体的に学び続ける人間性豊かな児童の育成を図る。そこで、知・徳・体の調和と統一のとれた児童、広く国際社会に貢献できる社会人となるための基礎を身に付けた児童、将来の選択肢に幅広い可能性をもつ児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。  
 ○よく考え進んで行動する子 ○思いやりのある子 ○からだをきたえる子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎明るく楽しく安全な学校 ○児童一人一人の人権を尊重し大切に作る学校 ○授業改善、研究、研修に力を入れる学校 ○保護者や地域から信頼され、協力、支援される学校
○児童・生徒像	○よく考え進んで行動する子…すすんで学習し、学び方や考え方を身につけ自らの力で課題を解決する児童 ○思いやりのある子…時と場に応じた挨拶や返事ができ、礼儀正しく明るく思いやりの心を持ち、お互いの気持ちを考えながら共に励まし合い助け合う児童 ○体をきたえる子…進んで運動し健康に気を付けながら、たくましく活力のある生活を営む児童
○教師像	○児童の健全育成に全力を注ぎ、児童に敬愛され、保護者・地域に信頼される教師 ○授業改善に努め、新しいことにチャレンジし、充実した授業を展開する教師 ○児童理解に努め、児童と正面から向き合える教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 《学校の現状》

- コロナ禍で学校生活が制限される中、学習面でも生活面でもできることを精一杯している。マスク着用の生活の中ではあるが、校内外で挨拶などしっかりできている児童が多い。学習用具の忘れや宿題忘れをする児童が固定化されつつあり、担任からの指導の強化や保護者との連携をより図っていく必要がある。
- 教職員は教材研究・授業や行事の打ち合わせ等を熱心に行い、足立スタンダードをもとに問題解決型学習を中心に児童一人一人に応じた指導を心がけている。30名の教員のうち、経験が自校のみの教員も三分の一いるが、お互いに協力を惜しまず、児童に正対しまじめに取り組んでいる。
- 区学力調査では、通過率が4月（国語81.3%、算数86.0%）9月（国語91.5%、算数89.8%）1月（国語94.3%、算数91.2%）であった。

### 《前年度の成果と課題》

- 基礎的・基本的な学習内容の定着

学校生活が制限される中、「平野スキルアップタイム」や補習教室によって、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ってきた。また、学習内容の理解に時間がかかる3、4年児童にはそだち指導を、区の学力調査で目標値に達しない児童に対しては夏休み、冬休み、春休みに補充教室を実施してきた。その結果通過率は区の平均を上回り、中位、下位層の基礎基本の定着度の底上げができてきた。今年度も理解できない内容をそのままにせず、放課後補習等を継続し、さらなる基礎学力の定着を目指す。若手教員が多いので授業力・指導力の向上が必要である。教科指導専門員による指導を真摯に受け止め、授業改善に努めさせる。家庭学習に一定時間取り組む児童が増えてきた。AIドリルを使った宿題や自学等家庭学習の習慣をさらに定着させる。地域の環境や自然・人を活用した学習や体験活動をさらに充実させる。また、全児童に貸与されているタブレット端末を学びの道具として、より個に応じた主体的な学習に取り組めるよう引き続き有効活用していくとともに、情報モラルについても併せて指導をしていく。

○心の教育の充実

年間を通して挨拶について指導してきた結果、朝の挨拶や廊下等での挨拶はかなりできるようになってきた。開かれた学校運営協議委員の方たちによる授業診断での評価でも挨拶についての評価が高い。保護者の学校評価では、「子供は明るく元気に学校生活を送っている」の肯定的評価が94%であるが、年3回調査しているいじめアンケートでは「いやなことを言われる」「無視される」などの記述も見られる。早期発見・早期解決に努めているが、油断せず見守るとともに道徳の授業を充実させ、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を重点にして指導していく。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな人間性の育成	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○
4						

#### 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童一人一人の基礎学力の定着、思考力・表現力の向上		年度当初－85% 1月－90% 2月現学年－75%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	スキルアップタイム	全児童 国語 算数	毎日5校時始業前15分 (B時程・土曜授業日等除く)	担任が、AIドリル、次へのステップ、東京ベーシックドリル、漢字・計算プリント等を活用して、漢字・計算の基礎を身に付けさせ、学力を定着させ、弱点を克服する。	全校で共通したワークテストを活用し成績ファイルで確認する	国語と算数のワークテストの平均点85点以上 2月の現学年調査は目標値の通過率75%			
							自己評価の際に記入		

2 継続	放課後補充 教室	全学年 目標値に 達してい ない児童 国語 算数	毎日 (月別 に学年 を指定)	専科、学習支援ボランティアが漢字・計算プリント等を活用して、つまずきをさかのぼり、少人数指導を行う。反復して学習させることで基礎学力の定着を図る。	学力調査の再調査(全児童)9月・1月実施・現学年調査2月実施	学力調査の再調査通過率90% 2月現学年調査通過率75%			
3 継続	長期休業期間中の補充 教室	全学年 国語 算数	夏休み 10日 冬休み 2日間	全教員と学習支援ボランティアがAIドリル、漢字・計算プリント、学力調査過去問題・類似問題、東京ベーシックドリル、次へのステップ等を活用して、学力調査で目標値に達しなかった児童や担任が気になる児童を中心に問題を解き直したり、補充問題に取り組んだりすることで、基礎学力の定着を図る。	学力調査の再調査(全児童対象)9月・1月実施	学力調査の再調査(9月・1月)通過率90%			
4 継続	読書活動の 推進	国語 全児童	読書記録は年間を通じて取り組む。毎週水曜日の朝読書 読書旬間-6月 読書月間-10月	毎日の生活の中で読書の時間を確保し、読書に親しみ、考える力や想像力を育む。 ・読書記録への記入 ・図書委員会による本の紹介 ・教師による読み聞かせと本の紹介 ・読書旬間-低学年20冊、高学年500ページ ・読書月間-低学年40冊、高学年1000ページ ・年間読書冊数の目標を各学年ごとに設定する。	読書記録で確認する。 読書旬間、読書月間の目標達成者は校長室に報告に来る。	読書旬間(6月) 読書月間(10月)の目標ページ数・目標冊数について8割達成			

5 継続	俳句コンク ール	国語 全児童	6月 10月	身近な生活の中で感じたこ とや自然現象などを、短い言 葉で表現することにより、物 事を見つめる目を養い、豊かな 感性を養う。 ・俳句コンクール（6月、10 月）・校長室前に投句箱を設 置し年間を通して校長俳句 会を実施。 ・外部の俳句大会にも応募	各学級の廊下 で俳句作品展 優秀作品の紹 介。	5・7・5のリズ ムで季語を用い た俳句を全員が 作る。			
6 継続	百人一首旬 間	国語 全児童	7月 12月	小倉百人一首、五色百人一首 を使用し日本の伝統文化で ある百人一首に親しみ、古語 の響きの良さに気付かせる。	百人一首暗唱 カード	各学年で 20 首 ずつ覚える。			
7 継続	「学年別家 庭での自主 学習」の発 行	全児童 全教職員 に発行	4月に配 布	保護者会資料として配布し、 家庭にも学力向上への取り 組みに理解し協力していただ く。 全校で毎日、AIドリルをは じめ漢字、算数、音読の宿題 を出すように共通理解し、未 提出の児童は、その日の内に 放課後等の時間を使って終 わらせる。	宿題提出簿 家庭生活調べ	宿題提出率 100%			
8 継続	授業力・指 導力の向上	全教科 全教職員	年間を 通じて	・年間8回の小中連携 ・全教職員による教科別分 科会と授業研究を実施 ・区や都の研修会への参加、 のべ100回以上。 ・週案簿に計画を位置づけて ICTを活用した授業をする。	研究会参加。 区や都の分掌 に関わる命令 研修以外に研 修へ参加。	全体会2回、 授業研究6回 一人4回以上研 修会に参加。 担任全員が週3 日以上ICTを 活用。			

9 継続	足立スタンダードに基づいた授業展開、校内での共通理解に基づいた指導体制	全教職員 全児童	年間を通じて	<p>足立スタンダードに基づいた授業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統立てて学年別にノートを選定し、低学年は、マス黒板を使って指導する。</li> <li>・ワークテスト（国・算）を全校で統一し、成績入力方法を統一し、経年比較ができるようにする。</li> <li>・漢字の速習（全学年1月までに当該学年で学習する漢字の指導を終え、以降は既習漢字の総復習を行う）</li> </ul>	<p>管理職、教科指導専門員による授業観察。</p> <p>ワークテストの経年比較データの活用。</p>	<p>全教職員が本時のめあてとまとめを意識し、足立スタンダードに基づいた授業を展開する。</p>			
---------	-------------------------------------	-------------	--------	--	--	--	--	--	--

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな人間性の育成			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
様々な人との関わりを通して思いやりの心を育成する		学校評価項目、子供は、明るく元気に学校生活を送っている 90%以上の肯定的評価	<b>自己評価の際に記入</b>		
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
縦割り班活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班遊び年 15 回</li> <li>・縦割り班給食年 2 回</li> <li>・縦割り班集会年 2 回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜授業日のある週の中休みを縦割り班遊びの日に設定し土曜授業日の中休みを 30 分間にして縦割り班遊びを十分とる。</li> <li>・給食部、特別活動部の年間計画の中に縦割り班活動を明確に位置づける。</li> </ul>	<b>自己評価の際に記入</b>		

幼稚園、保育園、中学校との連携	・児童・園児・生徒の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の見学、1年生との交流や保育体験をする。</li> <li>・学校図書館の利用や読み聞かせ体験をする。</li> <li>・中学校での授業体験と部活動体験をする。</li> <li>・長期休業中の小学校の学習教室等に中学生が〇付けボランティアとして参加する。</li> </ul>			
道徳の授業の充実	・道徳の授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の年間指導計画に重点として、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を位置づける。</li> <li>・いじめ防止を視点とした授業を1回以上行う。</li> <li>・年間計画に基づく確実な実施をする。</li> </ul>			
特別支援学級と通常学級の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校行事で各学年の通常級と一緒に活動する</li> <li>・固定級の担任による特別授業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会等の学校行事において通常級と同じ活動を行う。</li> <li>・9月に固定級担任による特別支援学級児童の特性について通常級の児童へ授業を行い。理解を深める。</li> </ul>			
挨拶運動等の推進と校内での名札着用の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価項目、子供は家庭や学校でよく挨拶をしている90%</li> <li>・名札着用率100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝と帰りだけでなく日中の挨拶について強化する。</li> <li>・各学級で名札着用の確認をし、週末に着用率を出す。</li> </ul>			

<b>重点的な取組事項－3</b>		家庭・地域との連携			
<b>A</b>	<b>今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>

家庭・地域との連携を密にし、信頼される学校を目指す。	保護者の学校評価 10 項目において肯定的評価の平均 90%	<b>自己評価の際に記入</b>
----------------------------	--------------------------------	------------------

## B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の学校評価 10 項目において肯定的評価の平均 90%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者全体会・学校便り・専科便り・学年便り・学校ホームページ・学校説明会・PTA 広報誌、校門前掲示板等で教育活動を発信していく。</li> <li>生活調べの各月の結果を学年便りに掲載し、基本的な生活習慣の定着について保護者に啓発する。</li> </ul>			
SDG's 環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコキャップ活動への参加</li> <li>食育を通じた食料のムダの削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年便りや担任の呼びかけで、エコキャップ活動への意識を高める。回収量 100 kg。</li> <li>給食の残滓率 2.5% 以下</li> </ul>			
開かれた学校づくり協議会・学校運営協議会の活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の活発化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会を開かれた学校づくり協議会の運営委員会として位置づけ、各部の活動を明確化し年間計画の立案や進行管理をする。</li> <li>土曜事業として漢字検定、着付け教室、そろばん教室、スポーツ教室等を計画・実施する。</li> <li>農業体験部会で平野農園での作物栽培や稲作体験を計画・実施する。</li> </ul>			

## 6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。  
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）